

賀正

いのち
生命のにぎわい調査団

いのち
生命のにぎわい通信

第37号：発行 平成28年（2016年）1月

発行：千葉県環境生活部自然保護課
千葉県生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615
URL <http://www.bdcchiba.jp/monitor/>
E-mail monitor@bdcchiba.jp

水辺の鳥たちを観察して、水中の生き物を調べてみよう！

水辺の鳥類を観察していると、採食行動の瞬間に出会えることがあります。ピントが合っていたり、解像度の高い写真が撮影できた場合には、食べられている生き物の種も特定することができます。鳥だけでなく、ぜひ食べられている生き物にも目を向けてみましょう。貴重な発見ができるかもしれません。



スズキをくわえたアオサギ a0838

高級魚のイメージが強い、江戸前のスズキ。スズキの未成魚は河川中流域まで遡上することもある。小魚を追って浅瀬などに入り込んだ際に、アオサギ、カワウなどに捕食されることがある。（千葉市）



アカエイを丸呑みするカワウ a0389

毒のあるとげを尾に持つアカエイだが、干潟や浅瀬に取り残された個体が、魚食性の強いカワウやアオサギに丸呑みにされている姿を見かけることがある。写真のカワウはこの後、無事に呑み込めたのであろうか。（千葉市）



ツチフキをくわえたカイツブリ a0826

水底で生活するツチフキだが、深い場所まで潜水できるカワウやカイツブリに捕食される姿を目にする。千葉県のツチフキは、西日本由来の国内外来種であると言われている。（我孫子市）



マハゼをくわえたカンムリカイツブリ a0836

ハゼ釣りの対象種として有名な、汽水魚のマハゼ。普段は水底で生活しているが、潜水能力の高いカンムリカイツブリやカワウなどに捕食されることがある。（旭市）



ボラをつかんだミサゴ a0512

水面近くを群れで泳ぎまわるボラは、ミサゴの格好の獲物となる。河川の中流まで上り、浅瀬に入り込んだ場合はサギ類に捕られる。卵巣を塩漬けにして天日に干した「からすみ」は珍味として有名。（銚子市）



オイカワをくわえたカワセミ a0708

河川の中流域に生息するオイカワは、比較的浅い場所を好むため、サギ類やカワセミに捕食される。繁殖期のオスは鮮やかな緑色の婚色を呈する。観賞魚としても人気があるが、飼育は難しい。（柏市）

お願い

野生の生き物たちが時折見せてくれる、「食べたり、食べられたり」という命のドラマ。それらは生きるために必死で行われている「採食行動」であり、それを妨げてしまうと生命にかかわります。必要以上に近づかず、遠くからそと観察するようにしましょう。また、獲物を落とした場合も、人が立ち去った後に拾いに行くことがありますので、移動させないようにしましょう。撮影目的などの不要な餌付けはせずに、自然な姿を観察しましょう。

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、当センターと調査団のホームページをご覧ください
「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/> 「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>

2016年は申年です！

千葉県には在来の二ホンザルが生息しています。「サル」は色々な生き物の名前の一部となっていて、昔話にもよく登場し、身近な存在であったことがうかがえます。「サル」の名にちなんだ生き物を探してみましょう。

二ホンザル（日本猿）

二ホンザルは積雪地帯に生息する世界唯一のサル。英名では Snow Monkey（雪のサル）と呼ばれ、青森県の下北半島に生息する個体群は、世界最北の個体群として国の天然記念物に指定されている。しかし近年、北アルプスなど高山への進出が見られるようになり、各地で生態系が崩れつつある。千葉県でも富津市と君津市にまたがる「高宕山のサル生息地」が国の天然記念物に指定されているが、農業被害や特定外来生物のアカゲザルとの交雑が問題になっている。



ショウジョウトンボ（猩猩蜻蛉）

オスが全身、顔まで真っ赤になるトンボで、日本各地に見られる。開けた水面のある公園や、湿地帯など色々な場所に生息している。「猩猩（しょうじょう）」は、赤い顔と赤い髪をしてサルに似た酒好きな妖怪で、中国では森、



日本では海に住んでいる。「猩猩」の名は、赤い生き物に多くつけられている。

ベニマシコ（紅猿子）

アトリ科の小鳥で、オスは腹部が鮮やかな紅色なる。イノコヅチやイヌタデなどの草の種子を好む。「ヒッ、ピッ」と小さな声で鳴きながら数羽で生活している。「猿子（ましこ）」はオスの顔が強い紅色になることにちなみ、アトリ科にこの名のつく鳥が多い。千葉県では冬に、水辺でよく見られる。



生命のにぎわい調査フォーラム&写真コンテスト

平成28年3月12日（土）午後1:00～4:00 中央博物館講堂にて

観察事例紹介と写真コンテストの応募をお待ちしています。締切：事例紹介 2/12（金）、写真コンテスト 2/29（月）

<これからの季節に観察できる生きもの>

- 調査対象種：ビワ（開花）、イタチ、アカガエル類（産卵）、トウキョウサンショウウオ（産卵）など
- 調査対象種以外：*カモ類などの冬鳥、猛禽類、哺乳類各種
 - *希少生物（生息・生育数が減少している生物）や、外来生物の報告も受け付けています。
 - *対象種以外の報告でも受け付けています（種同定のため写真添付をお願いします）。

メールアドレスなど、団員登録情報に変更がありましたら、事務局までお知らせください